

会 議 録

会議名	第8回 宇都宮市環境基本計画ワーキングチーム会議				
開催日時	平成14年 8月 1日(木) 午後7時00分~午後9時00分				
開催場所	宇都宮市役所 B1会議室				
出席者	ワーキングチームメンバー				
	小磯 順子		葛谷 理子		眞野 潤子
	大野 邦雄	欠席	森本 久子		仁平 隆史
	手塚 賢次	欠席	三宅 徹治		平野 正人
	斉藤 軍夫		林 常夫		児玉 博利
	江川 靖		村上 孝子	欠席	鈴木 誠次
	事務局(福田環境企画課長, 他8名)				
公開・非公開	公開				
傍聴者	2名				
議 題	環境基本計画(素案)について				

発言者	内 容
三宅リーダー	<p>はじめに、スケジュールの確認をしておきたいと思います。</p> <p>これまでのスケジュールでは、第9回の会議がパブリックコメントの後になっていました。今回、パブリックコメント制度という宇都宮市としての統一的なルールができました。これによって、環境基本計画についてもそれに基づいて実施することになったということです。このため、新しいスケジュールで見ますと、今日の会議で素案のイメージ固めをしまして、9月に最後の第9回会議を開催しまして、素案をまとめましょうということでご理解頂ければと思います。</p> <p>まず、素案の目次を確認したいと思います。大きく3つの編から構成されています。最初に計画施策編ということで、第1部の計画の基本的考え方、第2部の環境施策の方向、第3部リーディングプロジェクト、そして次の配慮指針編までは、これまで議論してきたところであります。そして最後の推進編までとなっています。今日は、主に前回の続きとしましてリーディングプロジェクトの部分と、最後の推進編の部分を中心に進めていきたいと思います。</p>
事務局	<p>リーディングプロジェクトにつきましては、前回もご協議顶きましたが、改めまして、基本的な考え方として、計画に掲げる環境施策をイメージすることができ、今後推進していく取組のシンボルとして、他の施策を牽引し、計画全体を先導していくような取組をリーディングプロジェクトとして位置付けるということであります。この意味では、一つの施策や事業ということではなく、計画に掲げる様々な施策や事業のベースとなる、または土台となるようなものをリーディングプロジェクトとして選定するという事にあります。そのような考え方で整理しましたものが参考1の資料にまとめてあります。</p>
仁平委員	<p>環境基本計画の方向が出てきた中で、どんな形なら動いて繋がってくるのかなということで、行政計画を花火を打ち上げることに例えますと、花火は1発打ち上げただけでは意味がありませんから、それに続いてどんな施策を行って最後に何をするのかというストーリー性を持って展開するのが重要だと思います。</p> <p>環境基本計画の場合も4つの基本目標があって、それに続く2発目、3発目の花火としてのリーディングプロジェクトとその後の行動計画という連続性を持った形にしていく必要があると思います。2発目の花火を繋ぐ先導する施策というのが大事になってくるのかなと思います。</p> <p>また、環境基本計画の場合、国の立場としては、国として戦略的な施策を進めるため、法律の整備や基準の設定、新しい技術を奨励するなどしますし、県の立場としては、国で決められたものに対して地方の水準を維持していくとともに、地方の特色のあるものを生かしたモデル的な事業等を展開していきます。</p>

市の場合は、私たちの市民生活と直結する立場ですから、国や県の流れを踏襲するだけでなく、その地域に必要な行動というものを具体的に市民に示すというもう一つ別の立場のものが環境基本計画の中に必要なのではないかと思います。

例えば、大気環境や地球環境では、国では、様々な法律の制定や基準等を設定したり、低公害車の普及促進を行いますし、東京都では、東京都の大気環境の質を守るために、ディーゼル車の乗り入れ規制を検討しています。宇都宮市に当たる区としては、国や都の立場とは別に、地域がヒートアイランドしていく中でどうするのかということで、私はあまり良いとは思いませんが、学校の校庭を芝生にするなど、具体的に市民に見える施策というので、市として出していくのが環境基本計画の一つの役割かなと思います。

宇都宮市の環境基本計画の中では、例えば配慮指針やISOのように、どちらかという市民を意識啓発して参加や自発的に動くことを待つという誘導施策が主体となっていますが、待つのではなく逆に受け皿と一緒にやりましょうという具体的なプログラムを提示するのが必要ではないかと思ひまして、前回6つ程の提案をさせて頂きました。どんな形なら市民が参加してくれるのかということで、全てを施策展開する前に具体的なモデルをつくるが必要かなと思います。それは、単にこれを配慮しましょうではなく、これを行うことによって、こういうことが改善できますよ、ということだと思ひます。

例えば、茂原のクリーンセンターに行きますと、焼却施設のほかに、自転車や家具等を修理して市民の皆さんにリユースしてもらうこともやっていますし、4階には環境学習センターということで、図書や設備がありますが、あまり動いていないようで、もったいない印象があります。

また、この周りには宇都宮の象徴でありますコナラの二次林をはじめとする林がありますし、調整池の方には、冬になると鴨をはじめとする冬鳥が飛来してきています。このような環境がありますと、自然との接し方やリサイクルを学んだり、二次林の落ち葉からコンポストにしたり、環境学習センターの機能を充実して、本があるだけではなく情報を集積して必要な情報を市民に提供するように組替えていく、というようなことを一つのモデルとして示すことができれば、あの場所でコンポストの形やリサイクルの形、それを使った現場での環境教育や情報提供、また、周辺の自然をもう少し多様な生物が生息するように再生するなど、色々なことが1ヶ所で出来るのではないかと思います。

他の施策というのは、市の環境部局だけで庁内調整をするのは難しいのかなと考えた時に、一つくらい頭で考えるだけではなく、実際の行動の形を示してそれに市民も参加していくというのは、これをやることによって全部に通じていくショーウィンドウになるのかなと思ひまして、これを提案させて頂きました。さらにリーディングプロジェクトで言えば、これで行ったしくみが、市街地の周りの二次林から市街地の中をベルト上に林が繋がる、また、生ごみを全て燃やすのではなく、使える資源循環ということで、コンポストを利用することに

<p>三宅リーダー</p>	<p>よって農業利用との結びつきを深めていく，そういったものに繋がるようなモデル活動をいくつか提示して，ある意味で繋ぐショーウィンドウの役目を果たすことになればと考えています。</p> <p>ありがとうございました。私はリーディングプロジェクトという言葉を少し誤解をしていた部分もありました。これまで私たちは，こういうことをやっていたらよいのではないかということで，たくさん議論してきたわけですが，それを総花的にやるわけにもいかないですから，その中でも特にシンボリックにやるものを選ぶのがリーディングかなと思っていました。しかし，考えてみますとそうではなくて，事務局の資料を見ると，色々やらなくてはいけないことを行っていくための仕組づくりを提案しているのがリーディングプロジェクトということで，今更ながらそうなのかと思うと同時に，この辺りが落としどころではないのかなとも正直思いました。</p> <p>今回の素案を見ると，数値目標も多く取り入れられておりますし，計画を推し進めるための仕掛けとして，リーディングプロジェクトということで「環境マネジメントシステム推進プロジェクト」と「市民パートナーシップ推進プロジェクト」の二つが出てきたということです。</p>
<p>江川委員</p>	<p>環境教育のところであれば，こどもエコクラブの会員を増やすなどの目標がありますが，あまり具体性がないのではないかと思います。学校版環境ISOについても，今，学校に求められることが多い中で，私のいる陽東小も学力向上のモデル校に指定されています。人も予算も少ない中で，環境だけを優先して取組んでいくのはなかなか難しい状況にあります。</p> <p>また，私たちにとってもクリーンパーク茂原の環境学習センターは利用しづらい施設だと思います。現在小学校4年生が社会科見学でクリーンパーク茂原を見学していますが，その時に仁平さんがおっしゃったような周りの自然観察なども含めたものができれば良いのでしょうか，主にごみをテーマとして見学していますし，1日で消防署や下水処理場など回りますので，別に時間を設けたり，予算的な援助があれば参加しやすいのかなと思います。</p>
<p>葛谷委員</p>	<p>リーディングプロジェクトの や については，誰がやるのか，誰が推進していくのかということで，そういったリーダーなどの養成をきちんと行っていく必要があると思います。</p> <p>環境マネジメントシステムについては，聞こえは良いのですが，実際には，ISOを認証取得する場合には，かなりの費用がかかります。象徴的には認証を取得した方が良いのかもしれません，実質的に同じようなことをやっても認証を取らない事業者もあると思います。事務局としては，どこまでの期待をしているのかわかりませんが，実際の費用の面から事業者にとっては大変なことになるのかと考えています。</p>

	<p>また、学校版環境ISOや家庭版環境ISOにしても、誰がどういうやり方で、どういった基準で認定するのでしょうか。既にあるような環境家計簿なども出ていますが、それとは別に規格を定めるということなののでしょうか。いづれにしても、目標に向かって努力することが一番大切なのであって、単に認定をもらうことが目標になってはいけないでしょうし、さらに、継続して上を目指していくところまでいけるのが今後の課題になってくると思います。</p>
事務局	<p>学校版環境ISOについては、現在、モデル校での実施ということで、西原小、峰小、鬼怒中に手を挙げていただいて取り組んでいます。内容的には、基本となるものはありますけれども、各学校の自主性・独自性に合わせた取組を行ってもらっています。また、家庭版環境ISOにつきましても、認定を受けることが目的ではなくて、市民の環境に配慮した行動というものを普及・促進していくために実施していくということです。但し、何らかのインセンティブとしまして、市から認定を交付するということを考えております。</p>
三宅リーダー	<p>学校版、家庭版については、ISOの精神の部分を引き継いで、自ら目標を立て、実施して、チェックするということになると思いますが、はじめから膨大なことを狙ってもうまくいきませんので、A4の用紙1～2枚程度で取組めることから実施していくのが良いのではないのでしょうか。</p>
児玉委員	<p>これだけのプロジェクトですし、話が大きくなるのは仕方ないと思います。先程の話にもありましたが、必ず誰がどのようにしてやるのかといったことに繋がっていくと思いますが、例えば、基本的には自分がやるんだという気持ちが大切なのではないのでしょうか。</p> <p>私もふるさと宮まつりの実行委員長を務めてきましたが、宮まつりはおみを出すためのまつりだということで多くの苦情がありました。そこで、何とかおみを減らせないかということで、色々奔走した結果、市の清掃課の方ではじめて真夜中のおみ収集を行ってくれました。また、市の現業労働組合や栃木そうじを考える会のボランティアの人たちが協力して、おみを拾ってくれました。その結果、二日目が終わった次の朝にはおみがひとつもなくなりました。</p> <p>ですから、私たち一人ひとりが動けば、環境は変わるのではないのでしょうか。私は青年会議所の方で定期的に市や議会に対して色々な提案をする活動しておりますが、以前に大野さんからの意見でありました、学校現場に一般の環境教育を行ってくれる人を派遣するシステムを作ってほしいということで働きかけてみようかなとも思っています。</p>
三宅リーダー	<p>先程の江川さんの話で学校の現場を考えるとあまり人を割けないという話がありましたが、必ずしも先生ではなくても、市民がそれをカバーするようなシステムがあればよいのではないかというお話で、リーディングプロジェクトの</p>

<p>仁平委員</p>	<p>のほうにも繋がってくる話かなとも思います。</p> <p>私もそう思います。特に環境教育の場合は、先生だけが教えるということではなく、環境との繋がりとか関わりということですから、例えば土との関わりで言えば、林さんのように具体的な実践からくるものをきっちり持っている方が、頭で覚えた知識を伝えるよりも、インパクトが非常に強いのではないのでしょうか。環境教育のプログラムの対象というのは、学校であったり、家族であったり色々あるのですが、それを担う人というのは、実際に現場で経験なさっている方なのではないのでしょうか。</p> <p>また、この地域環境学習体験の中で一つ提案したいのは、生涯教育講座というのがあるとすれば、それは、講座の受講生のお年寄りにカルチャー教室を与えるのではなくて、あるプログラムで、ある地域の環境というのをこんな形で伝えていくというプログラムを作るために、逆に参加者がそこでインストラクターになってもらえるような講座に組替えていくということもあると思います。私も学校教育を受けた中では、学校の先生のお話よりも、社会に出ている先輩が来て、何かの話を聞いた時の方が一番インパクトがありました。</p> <p>但し、そのようなリーダーを育成して、リーダーに任せるとありますが、これがなかなか難しいこともあります。例えば、環境省が自然公園のパークボランティアをはじめとして、環境保全活動に関わる人を認定してリーダーを育てて、さあ自由に活動してくださいとしても、実はあまり機能していません。それは、受け皿との繋がりがなくて、単にリーダーだけを育ててしまったからなのです。</p> <p>ここで一番必要なのは、どこでどんな形のものを、どんな人を対象にして、何を伝えるのか、そのためにどういう人にやってもらうのか、というようなプログラムなのだと思います。</p> <p>何を伝えたいのか、それをどう動かすのかというプログラムをしっかりと作っておくことが前提になると思います。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>ありがとうございました。計画期間の10年というスパンを考えると、これまで高度成長を支えてきた人達が徐々にリタイアしてくると思いますが、その中に何か社会に戻りたいという気持ちを持っている人はたくさんいるのだと思います。このようなパートナーシップというネットワークの窓口が出来れば参加したいという人が出てくるのかなと思います。そういう意味では、パートナーシップの推進というのは非常にタイムリーですし、宇都宮らしさがあるものではないかなと思います。</p>
<p>平野委員</p>	<p>パートナーシップの推進というのは、これからのことに焦点を当てているのかなと思いますし、表彰制度の創設というのは少し疑問がありますが、自発的に取り組むことが大切であって、結果として表彰がついてくるということであれば</p>

<p>林委員</p>	<p>良いのではないのでしょうか。</p> <p>たまたま昨日、鶏頂山の近くの釈迦岳という山に登ってきました。私の周辺の山はごみだらけですが、さすがにそこにはごみ一つ落ちていませんでした。車で1時間程の場所ですが、ブナなど原生林が残っています。私の小さい頃には市内にこういった山が多く残っていましたが、この30年の間に無くなってしまいました。また、僅かに残っている山には冷蔵庫等のごみが捨てられています。これはやはり一人ひとりのモラルだと思います。ですから身近な自然を残しておいて、そこで自然の大切さを学ぶべきだと思います。</p> <p>私が会長を務めています認定農業者連絡協議会という組織があり、370名程の会員がいます。私は代表としてこの会議に参加していますが、今後、農業者の立場から、宇都宮の環境をどう守っていくかということで、私から仲間に発信して、出来ることから始めていきたいと思います。</p> <p>現在、私が管理している土地は22haあります。これは健康の森と同じ面積で、私が一人で管理しています。この時期には雑草が生えますが、66,000坪の面積ですから一人で刈るわけにもいきませんので、どうしても除草剤を使うこととなります。ですから、できるだけ環境にやさしい除草剤を使うようにしていきたいとは思っています。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>例えば、パートナーシップのネットワークで、そのような林さんのお話が出ると、市民の中から刈らせてほしいという人も出てくるのかもしれないね。</p>
<p>林委員</p>	<p>自然がいいとは言っても、農地に行きますと蛇などもいます。カマで刈るとしても容易ではありませんし、とても追いつきません。</p>
<p>眞野委員</p>	<p>林さんの話にもありましたが、身近な雑木林などを歩いてみると、本当にごみが多いんです。これはやはり徹底した環境教育しかないのではないかと思います。子供の頃から、環境に対する意識を植え付けていく必要があると思います。そういった教育を受けてきたかどうかで、子供たちが大人になった時に大きな違いが出てくるのではないのでしょうか。</p> <p>私の主人も定年になり今は家におりますが、きっとまた何かしたくなると思います。先程のお話にもありましたが、そのような方はたくさんいらっしゃると思いますので、Uネットのようなものが出来て呼び掛けをすれば、もっと市民参加ができるのではないかと思います。</p>
<p>小磯委員</p>	<p>みんなの意識を変えることによって行動が変わってシステムが変わるのか、それとも、システムを変えることによって行動が変わるのか、どちらなのかなと思います。リーディングプロジェクトは、みんなの考え方を変えていくためのものですか。</p>

三宅リーダー	<p>みんなの行動をつくるための仕組づくりということだと思います。 これで何かが出来るのではなくて、こういったネットワークや仕掛けから論議が始まって動き出していくということです。</p>
仁平委員	<p>リーディングプロジェクトについては、この後の具体的な形というのを全部は示せないのかなと思います。 のパートナーシップ推進プロジェクトは、具体的な問題解決のためのターゲットを定めた行動計画ではなく、動かすきっかけづくり、サポートづくりでしょうから、具体的なテーマについて、こんなプログラムやっていくというのがこの後にぶら下がってくるのかなということで見えていました。</p>
三宅リーダー	<p>素案の推進編の部分についても、触れたいと思います。</p>
仁平委員	<p>今回、推進編で年次報告書の作成を明記したのは評価できると思います。また、フロー図の中にも年次報告書の位置付けを示しておく必要もあると思います。</p>
鈴木委員	<p>私の会社でも、毎年環境行動レポートをはじめ年次報告書というものを色々作っていますが、どうしても量が多くなってしまいます。最近では抜粋版も作るようになりましたが、それでもまだ量が多くなってしまいます。そうなりますと、なかなか読んでもらえないということで、読んでもらうためにどのような工夫をするかが大切ではないかと思います。見やすい、分かりやすい、市民にマッチしたレポートというのが今後の課題かなと思います。</p>
児玉委員	<p>推進体制のフロー図を見ますと、プラン、ドゥ、チェック、アクションということで、個別的な事業は一つひとつ進めて行くのだと思いますが、今後は計画をチェックしていくことも私たちの仕事ではないかと認識しています。</p>
葛谷委員	<p>計画の中で数値目標等も掲げていますので、それをチェックしていくためにはやはり年次報告書は必要だと思います。</p>
森本副リーダー	<p>リーディングプロジェクトを今後進めていく中で一番大事なものは、これに参画したいという動機があるかどうかだと思います。そして、私たちがいかに啓発できるかだと思います。こういった計画に対してまず関心を持ってもらうことが今まで欠けていました。私の場合も、環境の現状がこんなに悪いのかということを確認たくて、2年程勉強して、実際にどうしたら良いかと悩みました。今は団体に入って活動していますが、皆さんがなかなか参加してこないという現状があります。それは魅力がない、また自分達に益が無い、というのが原因だと思います。ですから、自分達にとって必要だということをお知らせするもので</p>

なくては、うまくいかないと思います。

以前にも言いましたが、組や班など、地域のお年寄りたちの集会で、環境についての勉強会に必ず出席してもらうことを要請してもよいのではないかと思います。環境についての学習をしてもらうことを推し進める形で依頼していく必要があると思います。また、会社をリタイアした人で、社会貢献をしたいと思っている人も多くなってきていますので、そのような人をうまく活用して環境リーダーを養成していくことも必要だと思います。

やはり、環境の現状が理解できなければ、やろうという気にはなれないと思います。学校においても取り組めていないのは、教育関係者の方も、統計だけで理解をして、自分の身近に危機が起こっていることを感じる事ができていないからだと思います。ですから、環境の現状や事実を知っていくということが大前提にあって、教育関係者や地域関係者、社会貢献したい人を含めた環境リーダーという学習者を増やしていくことを、何年かかけても推し進めていかないと、先程の参画の動機付けになっていかないと思います。

仁平委員

ボランティア的な参加をみても、ナホトカ号の座礁による重油流出や阪神大震災など、緊急的・災害的なものについては、参加への求心力も高いですが、日常的・反復継続的な行動については、そういう人を引き付けるのが難しいと思います。それを魅力あるものにするには、勉強会をして、リーダーを育て、そのリーダーに引っ張ってってもらおうとする方法は、国の環境カウンセラーをはじめ色々と見ていますが、リーダーが認定された宙ぶらりんの状態で機能していません。やはり、自分がこういう趣旨のこういうものだったら参加したという魅力あるプログラムというのが第一目ではないかと思います。受け皿のある

私も以前、国立公園の仕事をしていた時に、アメリカのロッキーマウンテン国立公園のボランティアコーディネーターの人と話をしました。そこでは、利用者に対して、自然の解説やごみ拾い、道路の補修やホーストレッキングなど、一つの公園に100人程の職員がいても、各セクションで人手が足りなくなり、サービスとして落ちる場合に、外に向かって助けてくれと発信します。

そうすると3,000人の登録されたボランティアの活動によって、延べ7万時間、60万ドルの予算削減に協力することができたとはっきり言っています。

ですから、足りない部分があり困っているから助けてほしいというようなプログラムを提示することも重要ではないかと思います。

環境教育にしても、高い位置に立ってみんなに教える人を募集するのではなく、そういうものをするには、小中学校にも地域にも無い、だからそれを補うものとして助けてほしい。それを補うためには、はじめにリーダーありきではなく、この部分が欠けていて、こういうことがやりたいというプログラムがないと動けないのではないかと思います。

今後はそのようなプログラムづくりがキーポイントになってくると思います。

齊藤委員

環境マネジメントシステム推進プロジェクトについては、具体的な推進手法の一つとしてISOということですが、現実より少しづつでも良くなっていきましょうということで、ISOの理念に基づいて、継続的に取り組んでいくことが大切かなと思います。

市民パートナーシップ推進プロジェクトについては、リーダーとかプログラムとか色々あるとは思いますが、まずは子供からお年寄りまで、環境に配慮することが常に目の届くところにあるということが大切で、それはやはり繰り返し繰り返しの中から生まれてくるのではないかなと思います。ですから、今後、各界各層において取り組んでいく中で、学校の先生が忙しくて誰がやるのかというお話もありましたが、それはまた後の問題で、それ以前のところを深く議論していかななくてはならないのかなと思います。

葛谷委員

素案の中でいくつか意見があります。

P17の大気環境で、数値目標をもっと高くできないでしょうか。

二酸化窒素については、1990年レベルよりも自動車で40%減と設定している都市もあります。京都では0.02ppm以下、但し当分の間は0.04ppm以下としています。また、表中の0.006ppmは一桁間違っています。

二酸化硫黄については、京都では0.02ppm以下にしています。

二酸化炭素については、市民や産業部門で排出量を1990年以下と設定している都市もあります。

ダイオキシン類の表中のNは間違いではないでしょうか。

P23の水環境で、下水道整備率の目標がありますが、下水道整備地区でも繋がらない人も約30%いるので、下水道整備率だけではなく、接続率や実利用率なども目標として定めた方がよいのではないのでしょうか。

P39の廃棄物で、一人一日あたりのごみ処理量の削減目標がグラムで示していますが、何年に比べて何%減らすという書き方のほうが分かりやすいのではないのでしょうか。また、数値目標をもっと高くできないのでしょうか。

川崎市では、2010年に1990年レベルまで下げるとしています。

P47の水資源の現状で、水道需要が横ばい、もしくは安定傾向にあるとの記述がありますが、それ以上の目標として、例えば市民の目標として、一人当たりの水道水の使用量を何年に比べて何%削減するなどの目標を掲げられないのでしょうか。また、P49の施策の内容が他の項目に比べて抽象的でよくわからないと思います。

P53の地球環境問題で、温室効果ガスの削減目標が1.4%は低すぎるのではないのでしょうか。また、1990年レベルに近づけるような目標を掲げることではできないのでしょうか。理想を求めすぎて実現不可能な数字ではまずいですが、実現できる範囲で高い目標を設定すべきではないのでしょうか。

P61の自然環境で、市街化区域内の樹林地面積は、現状維持ではなく、もっと

	<p>増やすことはできないでしょうか。他の項目では増加目標を掲げています。</p> <p>その他の目標として、街路樹を何年までに何本増やす、樹林地面積を何年までに何%増やす(何 ha にする)、市域の何%を緑地にする、樹冠投影面積率(どれだけ大きな木がどれだけ繁っているかによって、その影の面積を計算する)なども具体的でわかりやすく参考になると思います。</p> <p>P 63 の自然環境で、市の中心部に緑地が少ない現状の中で、「保全します」という表現が抽象的ではないでしょうか。また、鶴田沼や戸祭山緑地など今あるものを保全するほかに、新しいものを増やすことも必要ではないでしょうか。</p> <p>P 64 の自然とのふれあいの確保のところも表現が抽象的ではないでしょうか。この他の目標として、市民とふれあう水辺を何ヶ所増やす、ホタル生息地を何ヶ所つくる、歩いていける所に自然とふれあう場所をつくるなども参考になると思います。</p> <p>P 67 の身近な自然で、「釜川の二層構造は、良好な水辺空間を形成している」とは言えないと思います。</p> <p>P 93 の環境教育・環境学習で、環境学習の場と機会の創出において、全てのコミュニティセンターや公民館において、環境講座を最低年 1 回以上開催するというのを入れた方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>P 109 の配慮指針で、表中の(5)外出する時の所で水資源に が入っているのは間違いではないのでしょうか。</p> <p>P 143, 147 の配慮指針で、「適切な保全に配慮する」という表現が多すぎます。具体的に何をするのか分からないので、具体的に記述した方がよいと思います。</p>
事務局	<p>葛谷さんの意見の中で、数値目標について、京都市などのように環境基準よりも低い目標を設定している都市もありますが、環境基準より低くするために実際の施策としてどういうものがあるかを見ても、他都市の施策とあまり変わりがなく、意気込みとして掲げているということがあります。環境基準よりも更に低くするなど文言だけで表現するのは容易ですが、実際は次に繋がる施策がないと掲げられないものと考えています。</p> <p>また、ごみの削減目標についても、ここではグラムで表していますが、例えばたまご何個分といった表現方法もあるのかなと思います。</p> <p>この環境基本計画は、これだけが単独で動いているものではなく、市の総合計画をはじめ、緑の基本計画やごみ処理基本計画などの関連計画とリンクしていますので、特に数値目標や施策についても、環境基本計画だけで変更するというのは難しい状況にもあります。</p>
森本副リーダー	<p>公共施設における温室効果ガスの削減目標が低すぎると思います。出先の図書館などは冷房が寒くていられないこともあります。</p>
三宅リーダー	<p>事業者として物をつくる立場からは、京都議定書のCO2の削減目標は厳しい</p>

<p>森本副リーダー</p>	<p>など感じることもあります。</p> <p>松下幸之助の言葉で3%削減するのは難しいが、30%削減するのは簡単だということがあります。個人では減らしていくのは大変でも、システムを変えることによってできることもあります。私の市民団体でも環境家計簿を全国的に展開していこうとしています。ドイツでも市民団体が8人で6%減らそうということから始めたのが、1年で12万人の市民が参加して20%減らすことができたということがあります。環境家計簿は市民レベルで取組めるものとして、市民一人ひとりが参画しやすいですし、無駄な電気を消すなどの努力によって6%を減らすことができるのではないかと思います。</p> <p>今HPを立ち上げていますが、入力することによって結果がすぐ数字に出てきますので、削減する楽しみややりがいもあり、地球環境や家計に貢献するというメリットも感じられるのではないかと思います。ぜひ、個人でも行政でも参加していただきたいと思います。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>今日の活発な議論や今後の庁内会議における協議などを踏まえまして、次回が最後のワーキングチーム会議となります。是非いい最終素案をまとめたいと思います。本日はありがとうございました。</p>